

# 専念寺通信

十二月号 (NO. 136)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>



今年も一年の最後の月がやってまいりました。3月の大震災以降、さまざまな意味で試練の多い一年でした。みなさま、おかわりなくお過ごしですか。

## ☆ことしの言葉

☆宇宙滞在連続167日の日本記録をみやげに国際宇宙ステーションから戻った古川聡さんを迎えて、宇宙滞在の先輩、山崎直子さん。「どんな存在も、決してムダというものではなく、世の中のすべてのものには意味がある、と宇宙で思った。」「どんな悲惨な災害が人々を襲おうとも、飢餓や貧困、差別や格差が厳然としてあろうとも、それでも生きている世界は美しい、と。」(朝日新聞・天声人語)

☆2011年3月11日の大地震と大津波の報を聞いて、スロバキアの路上生活者たちの作るストリートマガジン『ノタベネ』誌代表から日本の路上生活者雑誌『ビッグイシュー』へ連絡があった。『ノタベネ』の4月号の売り上げの全額を「ビッグイシュー日本」へ寄付すると。この国のストリートマガジンを創刊するきっかけを作ったのは、2001年、ソーシャルワークを学ぶ学生3人であった。(『ビッグイシュー』180号) (『ビッグイシュー』は早稲田、新宿、池袋駅前などで購入できます)

☆福島県相馬市の小学校で、ブータンのワンチュク国王が語った。「皆さんの中に人格という竜がいます。年をとって経験を積むほど竜は大きく強くなります。」ブータンはグローバル化に左右されず、物質に頼らず、国民の「幸福度」が90パーセントを超える国である。

☆「もともと民主主義には非常に不安定な要素が埋め込まれている。民意といっても、ひとりひとりの意見や利害は違う。不満は必ず出るがそ

の不满にもまたこたえようとするので、結果的に政治は迷走する。民主主義が進み、民意を反映させようとするほど、政治は不安定になってしまう。その場合、人々の不満を解消するためには、なにか敵を作って、叩くのがてっとり早い。」  
「いま日本の経済や社会状況はどんどん悪化しています。国民の閉塞感がいま以上に強まると、独裁者が出てくる可能性は高いでしょう。」  
(朝日新聞・京都大学教授・佐伯啓思氏)



この1か月のあいだに目にとまった記事から抜粋しました。敗戦後、みなで働いて、どんどん経済成長した日本、奇跡の復興を遂げた私たちの国は、いま、いろいろな角度から、きびしい選択を迫られています。経済を回復させることは大事です。同時に、国民の「幸福度」も大事です。更には、災害によってつらい生活をしている私たちの同朋の暮らし、今後、来るかもしれない地震などの災害への備え、も大事です。生まれてくる子供たちの数が減っていること、その子供たちの生を安心なものにできないのは問題です。長生きをしている人たちが大切にされない世であってはなりません。懸命に学び、生き、世の中に出たのに仕事がない、という世であってはなりません。弱い人ばかりが損をする世であってはなりません。すぐには結論の出ないことばかりです。ただ、ひとつだけはっきりしていることがあります。私たちは「戦争」している暇などないということです。「共通の敵」がいる、と耳にしたら、まず立ち止ましましょう。戦争するお金はありません。私たちは幸福になるために生まれてきて、生きているのです。人を殺して、人は幸福にはなれません。



写真は今年の桜の最後の一片、そして境内の落ち葉です。皆さま、お身体を大切にどうぞ良い年をお迎え下さい。

平成23年12月1日 大黒